

発達障害啓発週間 織協ビル、青色に 関係団体がライトアップ

国連が定める「世界自閉症啓発デー」の2日、福井市の県織協ビルでライトアップが始まった。壁面のLEDが、癒やしや希望を表



す啓発シンボルカラーの青色で点灯した。8日まで。2～8日は厚生労働省が定める「発達障害啓発週間」で、全国で啓発イベントが行われる。今回のライトアップは、県発達障がい児者支援センター、日本発達障害ネットワーク福井、福井水仙ロータリークラブが同

福井 発達障害啓発週間でライトアップされた県織協ビル。2日午後6時35分ごろ、福井市大手3丁目(長島昌徳撮影)

自閉症理解へ青い光

国連が定める「世界自閉症啓発デー」の2日、福井市の県織協ビルが、自閉症への理解を広げる活動のシンボルカラー・青色にライトアップされた。青い光には癒やしや希望の意味合いが込められており、8日まで点灯する。

ライトアップは、県発達障がい児者支援センター、日本発達障害ネットワーク福井、福井水仙ロータリークラブが共同で初めて実施。二、八

福井の県織協ビル

日を厚生労働省が「発達障害啓発週間」と定めていることも踏まえた。自閉症をはじめとした発達障害のある人が働く上で、社会の理解が不可欠なことから、県民の目に触れやすい市街地での啓発を企画した。ネットワーク福井の永井弘明事務局長は「発達障害の特性を理解し、受け入れるきっかけにしてほしい。今後さらにライトアップの場所を増やしていきたい」と話した。(浅井貴司)



青色にライトアップされた県織協ビル＝福井市大手3で

ビルの協力を得て企画した。ガラス張りのビル北側と東側の一部には、色を変えられるLEDライトが21カ所設置されている。空が薄暗くなった午後6時半ごろ、青い光が夕闇に浮かび上がった。通行人たちは立ち止まって見上げていた。日本発達障害ネットワーク福井の永井弘明事務局長(67)は「ライトアップをきっかけに障害に対する理解を深めてもらい、活動の輪を広げることができれば」と話していた。(成実宏一)

福井発達障害啓発週間 ライトアップ ミーティング企画書

- ・ブルーライトアップ事業の意義は、自閉症啓発デー、発達障害啓発週間に県民に知って貰いたいこと
 - ・これまでJDDnet 福井ではシンポジウムを開催し、深い理解を追求してきたが、同時に広い理解も必要だ。
 - ・織協ビルでのライトアップの前にも何度か単発の啓発のライトアップを行っていたが続かなかった。
 - ・今回の織協ビルでライトアップ点灯式を行ってもメディアで取り上げて貰うのが精一杯
 - ・目的は発達障害の啓発、ライトアップはその一つの手段
 - ・発達障害の啓発を行うなら、県民ホールでのポスター展示など他の方法もある
 - ・ブルーライトアップも他県の先進事例をみると、より公共的な県民に知って貰える場所へ次年度以降拡大していくべきではないか？
 - ・そこで今年はスクラムでの自閉症セミナー後に来年に向けて「ライトアップミーティング」を開催することを提案したい
 - ・その目的は発達障害を知ってもらうための手段を話し合うことで、何かを決定する場ではない。
 - ・その中で全国の先進事例を紹介する
 - ・専門家、研究者、支援者だけの発達障害では拡がりがない
 - ・県からは最後にコメントを求めるだけでいい
 - ・一般の人もオンライン参加出来る。
 - ・JDDnet 福井でも参加を呼び掛けたい
- ※大筋でスクラム福井の野村施設長の合意を頂いた。



ライトアップ記事 福井新聞・日刊県民福井 4月2日から